

## 第2回 そうだ！地方で暮らそう国民会議 提出資料

南国生活技術研究所代表  
高知大学地域連携推進センター特任教授  
黒笹慈幾

### 1、高知県移住促進協議会委員としての活動

- ◆高知県須崎市の観光振興策の一環として、須崎湾のレジャー釣り船の新規投入にあたり、県外からのベテラン船頭の移住誘致、船頭希望者の移住誘致とその後の養成システムの整備について提言を行い関係各部署の取り組みを促した。
- ◆すでに地域間の争奪戦となっているシルバーおよび若年層の「移住者誘致」において、最も大切なのは「なぜいま高知なのか」の理論武装である。そのためには高知にしかない移住後の生活スタイルの具体像を「見える化」し、合わせて相手の心に届く「言葉」を作り出し伝える必要があると提言、賛同を得た。
- ◆地域間競争に勝つための情報戦の一環として「中央メディア取り上げてもらうための幾つかの要件」を、かつて情報機関の内側にいたものとして提案し、賛同を得た。

### 2、「高知版 CCRC 研究会」「高知版 CCRC とりまとめ委員会」委員としての活動

- ◆他県にはない「高知版 CCRC」独自のプランとして「CCRC サテライト」の概念・仕組みを提案し採用された。「CCRC サテライト」とは中心市街地の CCRC にプラスして、遠隔地に別荘型のサテライト CCRC を組み合わせるもの。
- ◆高知版 CCRC がアクティブシニアが運営に主体的に関わる「コーポラティブタウン」であることをより強く打ち出すため、同じ趣味の人同士が一緒に暮らす「趣味別街区」、街区の中心に趣味に特化したお店を配置するプランを提案。

### 3、移住者としてのメディア出演

- ◆韓国の TV メディア UBC の「アクティブシニアのセカンドライフ」特集に出演
- ◆総務省移住促進 PV 動画に出演